Cherríe Moragaは、ある日、女たちがレイシズムをテーマにして話しあう会合のなかですら、白人が中心となり、大理石の模様のようにそこにまじる皮膚の色のちがう女たちが、沈黙せざるをえない状況について、こう書く。

いったいどうやって、ひどく くるしめられてきた歴史のながれに、こんどこそ、じぶんたちのからだを なげだすんじゃなくて、この谷間に橋をかけることができるんだろう？　きのうのよる、Barbara はこういった――「橋っていうのは、ふまれて、わたられるんだよ。」そうだ。なんどもなんども、ふまれる、そのくりかえしなんだ。

How can we—this time—not use our bodies to be thrown over a river of tormented history to bridge the gap? Barbara says last night: “A bridge gets walked over.” Yes, over and over and over again.

Cherríe Moraga
A Bridge Gets Walked Over（Boston, Massachusetts - July 25, 1980）
from La Jornada: Preface,1981